

若者の株取引に対する意識差  
～アメリカと日本の違い～

九州産業大学  
商学部  
商学科  
13CC057

梅根和志

担当教員：平川幹和子

# 目次

第1章 はじめに.....	1
第2章 日本における株取引の実態.....	5
2.1 日本人の株取引に対する意識の現状.....	5
2.2 九州産業大学の学生から見る若者の株取引に対する意識.....	6
第3章 アメリカ人の若者の株取引への意識調査.....	11
3.1 調査目的.....	11
3.2 調査方法及び調査項目.....	11
3.3 調査結果.....	13
第4章 アメリカと日本における若者の意識差の原因.....	18
第5章 おわりに.....	20
引用・参考文献.....	22

# 第1章

## はじめに

昨今の日本は、少子高齢化、年金、格差社会など、多くの解決していかなければならない深刻な問題を抱えている。これらの問題は、私たち若者の将来に大きな影響を与えかねないものである。特に年金や少子高齢化についてはニュースや新聞にもよく取り上げられ、若者の大きな負担につながると言われている。

現在の日本の年金は、賦課方式という制度を採用している。これは高齢者に対する年金給付を、現役世代の保険料収入でまかなう方式である。この方式は、人口が増加し経済が発展していく限りは運用に問題は無い。しかしながら、現在の日本のように少子高齢化になると、保険料収入が減っていくため、制度の継続が困難になる。2015年時点において1.0人の高齢者を支えている生産年齢人口は2.3人であるが、2016年には少子高齢化の影響により1.3人にまで減少すると言われている[1]。このため、若い世代は支払う保険料に比べて現在の高齢者がもらっている金額より遥かに低い金額しかもらえない可能性もある。このように、我々若者が将来収入として見込める国が保証する年金額が減る可能性は非常に高い。

一方、企業が保証する年金である企業年金においても、従来、確定給付型の年金がメインであったが、現在は確定拠出型の年金に変わってきている。確定給付型の年金は、支給される金額があらかじめ決まっている年金制度であり、年金資産の運用は企業が行うため、予定通りの利回りで運用できなければ企業は不足分を払う必要が出てくる。日本経済が拡大していた時期は運用することで利益が上がっていたが、ここ数年の経済が停滞している状態では運用益を出すのは難しい。そのため確定給付型の年金制度を持ちたくないという企業が増えている。それに対して確定拠出年金は、企業が拠出する掛金の金額が決まっており、それを社員自身が運用する年金制度である。確定拠出年金では、運用の成果によって年金額が変わってくる。運用資金となる掛金の一部を企業は拠出するが、運用については加入者である本人が指示を出して行うため、たとえ運用に失敗したとしても企業は責任を負う必要がない。そのため多くの企業が確定給付型の年金制度から確定拠出型の年金制度へ移行させており、今まで会社に任せていた企業年金を自分自身で運用をする必要がある。

このように年金だけを見ても、我々若者は資産運用をしなければならない状況にあるが、近年の晩婚化を鑑みても資産運用は必然と言える。我々が生きていく中で必要な支出は様々あるが、その中でも住宅資金、教育資金、老後資金は多くのお金を必要とするため人生の三大支出と呼ばれている。教育資金においては、幼稚園から高校まですべて公立で進学した場合にはおよそ 500 万円かかり、すべて私立の場合は約 1700 万円かかるとされている。これに大学での学費等を加えれば国立の場合では約 500 万円、私立の場合ではおよそ 900 万円から 1000 万円かかるとされている。つまり、教育資金だけで約 1000 万円から 2500 万円かかることになる[2]。さらに、住宅購入は人生における最も高額な買い物の一つであり、国土交通省が発表した「平成 26 年度住宅市場動向調査について」によると住宅資金の平均はおよそ 3000 万円から 4000 万円で多くのお金が必要になる[3]。また、老後の生活では公的年金制度などはあるものの、今現在の年金受給額でさえ多くの世帯において支出が収入を上回る状況となっており、将来的にはさらに多額の費用が必要になることが考えられる[4]。さらに問題となるのは、三大支出のタイミングである。従来では 20 代から 30 代で家を買って、30 代後半から 50 代にかけて子供の教育費がかかり、それから老後のためにお金を蓄えるイメージであった。しかし、近年では晩婚化が進んでおり、約 30 代後半から 40 代にかけて、住宅資金、教育資金、老後資金が一度に重なってしまう状況が多くなっている。

ここまで述べたように、日本で普通に生きていくために必要な資金問題は、我々若者にとって避けては通れないものである。しかし、これらの問題に関して若者が関心を持ち、リスクを減らすために今のうちから準備をしているだろうか。確かに国がこれらの問題に対して対策を行い解決していくべきである。しかし、すぐに解決できるような簡単な問題ではないため将来に向けて個人で今のうちから準備することも必要であると考ええる。雨が降るとわかっていれば傘を持っていくように、事前にリスクがあることがわかってさえいれば誰であろうと対策をしてリスク管理をするはずである。それをお金や収入の面で行う必要がある。要するに、これらの社会的問題に対処していくためには若いうちから収入を増やしていく必要があると考える。

ではどのように収入を増やしていけばいいのだろうか。私たちが生活する上で必要不可欠なこの収入には、大きく分けて労働収入と不労収入の二種類がある。労働収入とは働いた対価としてお金を得ることである。自分自身で働く会社勤務や自営業などがある。一方、不労収入とは自分自身で働かずにお金を得ることである。お金を投資することでさらにお金を増やす株式投資や不動産投資などのことである。これから起こり得るさまざまなリスクに対応していくには、この二つの収入を得ることが必要であると考ええる。もし自分が労働収入し

か得ていないと、リストラや病気などで働けなくなり、急に労働収入が途絶えた場合、生活が困窮するリスクがある。しかし、不労収入があれば、労働収入が途絶えたとしても不労収入で補うことができ自分自身で生活していくことができる。このように、労働収入と不労収入を得ることにより、リスクの分散をはかることができる。また、若いうちから不労収入を得ることは、資産を形成するのに優位であり、初めに述べたような社会的問題に対処するための有効な方法であると考ええる。

しかしながら、資産形成に関して、多くの日本人がお金を貯めさえすれば問題ないと考えている。ところが、銀行にお金を預けた場合と株式投資で運用した場合では大きな差が出てくる。2015年11月30日現在の福岡銀行の普通預金金利0.02%と、株式会社アズマハウスの配当利回り会社予想4.32%を用いて、100万円を1年間運用した場合を計算すると銀行の場合は200円しか増えないが、株取引の場合4万3200円も増えることがわかる。これは極端な例であるが、単に銀行にお金を貯めて何もしないのと、積極的な運用ではかなりの違いが出ることは確かである。

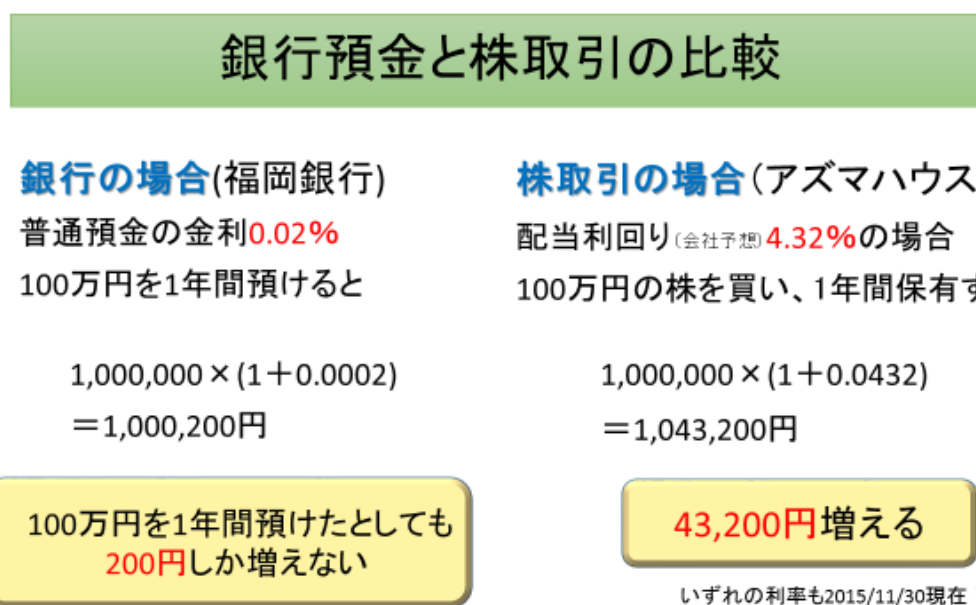


図 1 銀行預金と株取引の比較

不労収入には株取引、投資信託、不動産投資などで得られる配当などがある。中でも株取引は若者が資産運用をする上で有効な手段になると考える。株取引には少額取引と呼ばれるものがあり、これは単位株未満で株を買うことができる取引である。そのため収入が少ない私たち学生でも株を買うことができる。また、少額投資非課税制度(NISA)は1年間120万円までの投資に対する利益

が非課税なため、税金面で大きなメリットがある。このように、株取引には多くのメリットがあり、若者に向いている。

このように、株取引には多くの利点があるが、それにもかかわらず、日本証券業協会調査部が行った平成27年度証券投資に関する全国調査によると、日本人の約1割しか株取引をしていない[5]。そこで、平川ゼミナールは九州産業大学の学生を対象に、若者は株取引に対してどのような考えを持っており、実際に株取引をしてみたいのかなどについてアンケート調査した。その結果、日本証券業協会の調査と同じようにほとんどの学生が株取引を行っておらず、株取引に対する印象もほとんどの人がマイナスの印象を持っていることがわかった。また、株取引について難しく考えており、詳しく知っている人はほとんどいないこともわかった。しかしながら、それに比べてアメリカでは国民の半数近くが株取引をしているというデータがあり、日本とは大きな差がある[6]。そこで私は、アメリカの若者は株取引に対してどのように考えているのか、日本とアメリカにはどのような意識の差があるのか、その違いの理由はどこにあるのかを明らかにするために、アメリカの学生を対象にアンケート調査し、原因を探った。

## 第2章

### 日本における株取引の実態

#### 2.1 日本人の株取引に対する意識の現状

日本証券業協会が平成 27 年 11 月に公表した「証券投資に関する全国調査」では、7,000 人の調査対象のうち約 18%が有価証券を保有していると回答している。証券投資に対するイメージでは多くの人々が「難しい」や「お金持ちがやるもの」、「なんとなく怖い」などのマイナスの回答をしている。また、証券投資だけでなく証券会社に対しても「敷居が高い」や「あまり信頼できない」などのマイナスの回答をしている。証券投資の必要性については約 80%の人が「必要ない」と回答しておりその理由としては「損をする可能性がある」や「リスクを取りたくない」、「金融や投資に関する知識を持っていない」という回答が多かった。さらに、証券投資教育受講の有無についても 80%以上の人が「受けていない」と回答している。

平成 28 年 9 月に日本銀行調査統計局が発表した「資金循環の日米欧比較」のなかに、家計の金融資産構成というデータがある。それによると債務証券、投資信託、株式等を合算した保有率は、日本 16.6%、アメリカ 51.8%、ユーロエリア 29.5%である。さらに、日本の家計の金融資産のうち現金・預金の安全資産に占める割合は、米国・欧州と比べ際立って多い。現金・預金の安全資産の保有割合は日本の 55.2%に対し、米国 14.6%、ユーロ圏 35.8%(ユーロ諸国の平均)である[7]。日本人の総金融資産は 1,741 兆円であるが、その約半分が「現金・預金」であり、「投資」にまわしている分は 20%以下と、とても低い数字であることがあらためてわかる。この日本の状況は今に始まったことではなく、過去 20 年間の株式相場の騰落で資産シフトは若干あったものの基本的な構造は全く変わっていないもの事実である[8]。

このように、日本ではお金のことについて話すことは教育的によくはないという考え方が多くの人にあり、株取引などの資産運用についての大切さや将来のために備える重要性などを学ぶ機会が少ない。そのため、多くの日本人が株取引や資産運用について詳しく知ることができておらず現在の状況に繋がっているのではないかと考える。知識がなければ、リスクを取れないのは当然である。また、日本人の銀行預金率が世界でも飛び抜けて高いのは銀行にお金を預ける

以外の資産運用方法を知らないからとも言える。さらに、日本では働いて得たお金以外は「悪銭身に付かず」といった格言にあるように良い印象が持たれないことや戦後の日本は産業政策で国民の預貯金を奨励したこと、長期間投資リスクをとることができる若い世代の収入が少なく、投資をする余裕がないことなどが今の日本の現状の背景にある。日本人の銀行預金率は世界でも飛び抜けて高いが、これは銀行にお金を預ける以外の資産運用方法を知らないからとも言える。銀行に預けてさえいれば「元本保証」があるので、ひとまずリスクがなく安全だと思っている人が多いのではないかと思う。

しかしながら、これは一見安全に見えて、実はリスクがとても高い。例えば、1,000,000円を1%の利子で銀行に置いておく場合、20年経つと1,173,686円となり、15%以上も増えるように思われる。しかし、インフレ率が3%だとすると、同じ期間に物価はなんと2倍になるため、100万円のものが200万円となり、実質購買力は減ってしまう。つまり、銀行にお金を置いておくと、お金の実質的価値が目減りしてしまう可能性がある。そのため、インフレ率を上回る資産運用をする必要が出てくる。お金として持っている価値は下がるが、物価が上がるといえることは、持っていれば増える資産もある。自分で住宅等を購入しなくても、投資信託などを利用すれば、現金とは別の形の資産として持つことができる。さらに、日本証券業協会の「証券投資に関する全国調査」によると証券投資に対するイメージの多くはマイナスのものだが、4年前と比べてプラスのイメージの回答が増えており、中でも証券投資は資産運用の一環であるという回答は10%近く増えていた。また、証券投資の必要性について必要があると答えた人の理由として最も多かった回答は「預貯金だけで十分利息を期待できない」というものであった。このことから、証券投資に対する日本人の印象が近年変わってきているのではないかと考える。そこで、これからたくさんのお金が必要になる若者たちは株取引についてどのように考えているのか、どのくらいの若者が株取引を行っているのか、日本証券業協会の調査の結果との違いはあるのかなどについて調べるために九州産業大学の学生にアンケート調査を行った。

## 2.2 九州産業大学の学生から見る若者の株取引に対する意識

日本証券業協会調査部が実施した「平成27年度 証券投資に関する全国調査（個人調査）」によると日本人の約2割しか株式投資をしていないという結果が出ており、日本人全体の株取引に対する意識の低さがわかる。そこで、若者が株取引に興味があるのか、どれくらいの人が株取引をやっているのか、株取引に対する印象などについて、2015年10月26日から11月9日までの15日間、



平川ゼミナールⅡで学内の食堂で学生に声をかけて iPad アプリの「アンケート Pro」を使用し、九州産業大学の学生 237 人にアンケート調査を行った。以下にアンケートの項目を示す。

【設問項目】

- 学部、学年、性別
- 株取引に対する印象
- 現在株取引をしているか

Yes の場合

- 何歳から始めたか
- なぜ株取引をしているのか
- 株式投資をする際の情報源は何か

No の場合

- 今までに株取引をしたことがあるか

Yes の場合

- 株取引をやめた理由は何か
- 始めたきっかけは何か
- もう一度始めたいか

No の場合

- 株取引をしていない理由
- 株取引をやってみたいか

九州産業大学の学生 237 人にアンケートを行ったところ、図 2 に示すように現在株取引をしている学生は 3 人、今までに株取引をしたことのある学生は 2 人でほとんどの学生が株取引をしていないことが分かった。しかし、株取引をしてみたいかという問いに対しては、図 3 に示すように全体の約 40%の人が「株取引をしてみたい」と思っていることがわかった。

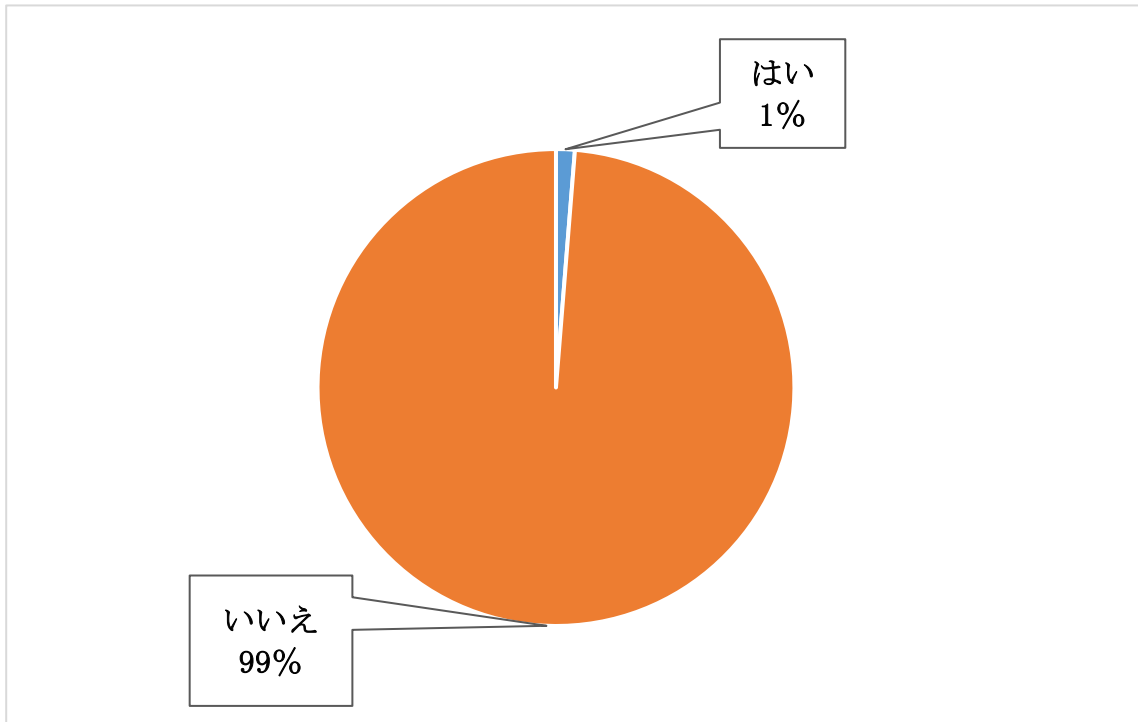


図 1 九州産業大学学生アンケート結果「現在株取引をしているか」

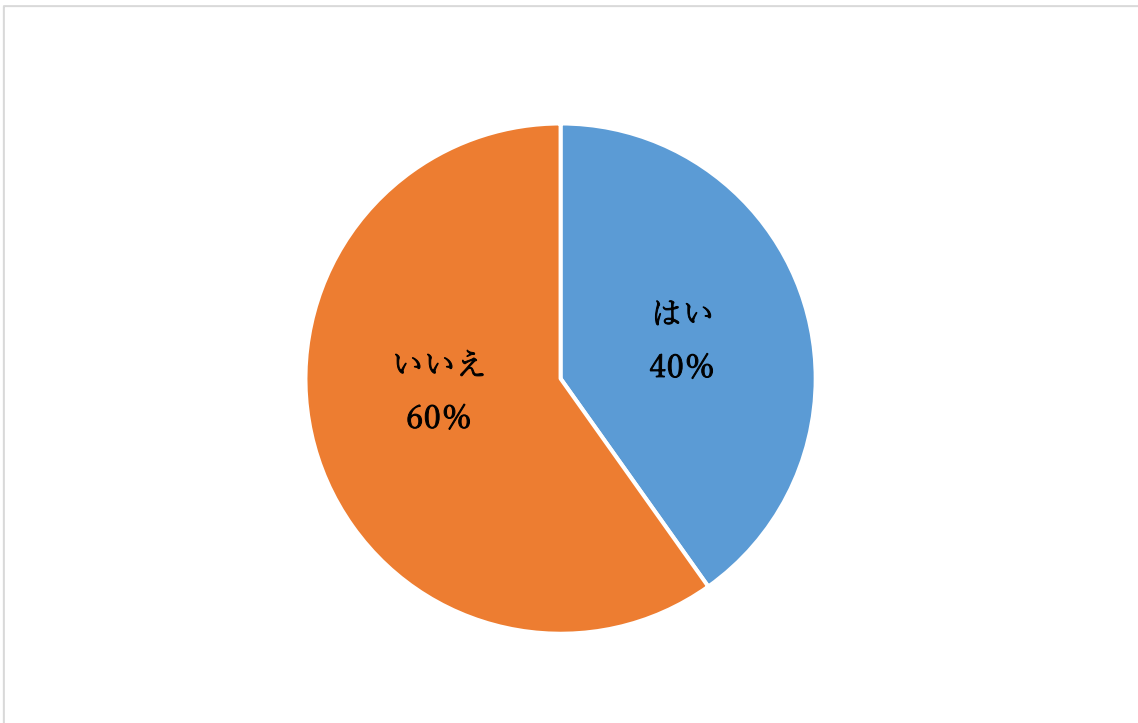


図 3 九州産業大学の学生アンケート結果「株取引をやってみたいか」

図4に株取引をしていない理由についての結果を示す。理由としては「やり方がわからない」「損をしたくない」という回答が約50%を占めており、株取引について詳しく知らない人がほとんどであった。

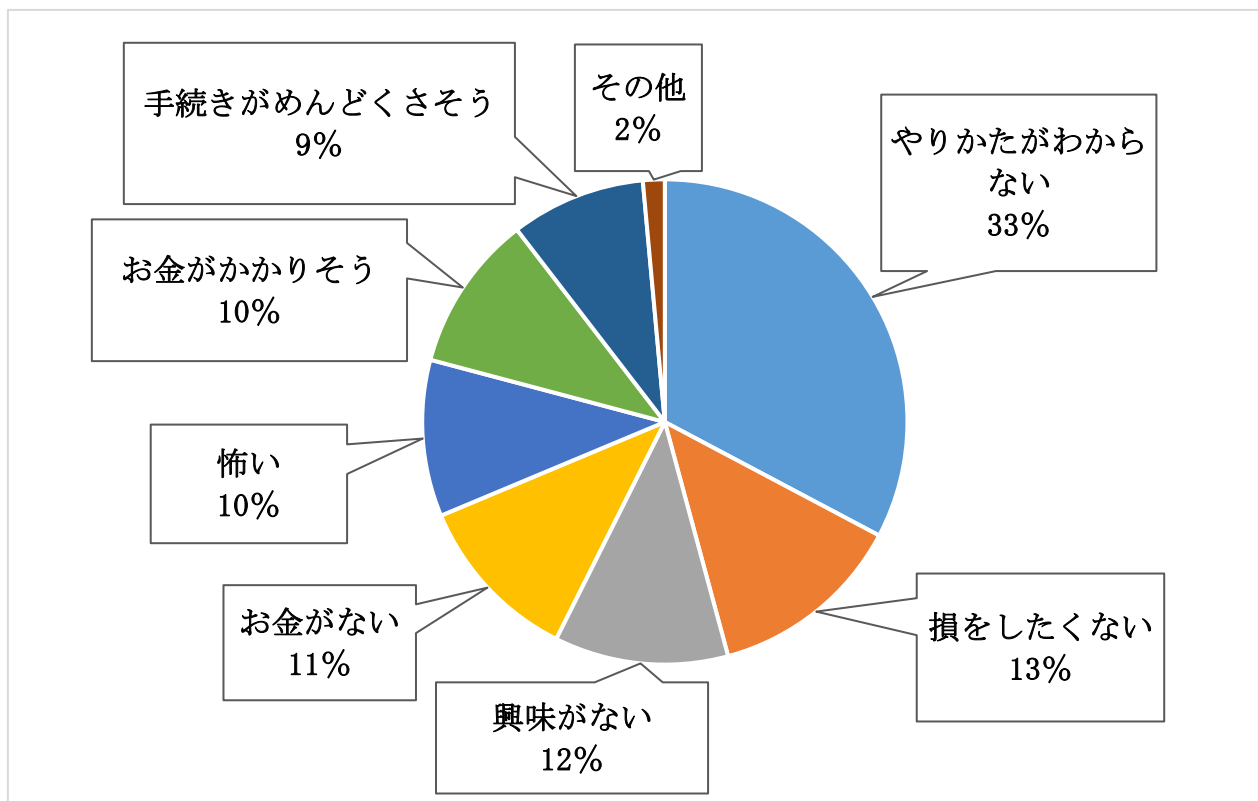


図4 九州産業大学の学生アンケート結果「株取引をしていない理由」

図5に株取引の印象の結果を示す。「難しそう」や「リスクが高そう」など、マイナス印象が約80%あったが、残りの人は、「面白そう」、「お金儲けができる」、といった株取引に対して意欲があるということもわかった。

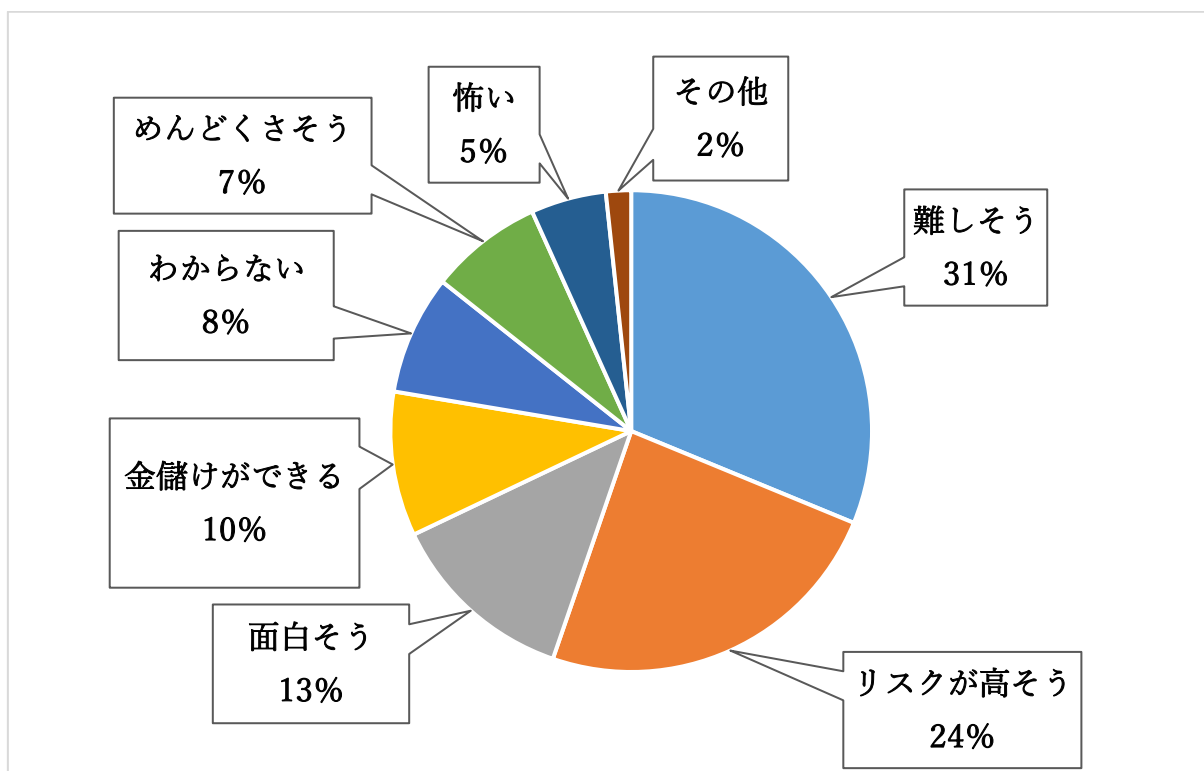


図 5 九州産業大学の学生アンケート結果「株取引に対する印象」

全ての結果から考察すると、学生の株取引に対する印象は「難しそう」や「リスクが高そう」などの回答が多く、全体の約 80%の人が株取引に対してマイナスの印象を持っていることがわかった。しかし、株取引をしてみたいかという問いに対しては、全体の約 40%の人が「株取引をしてみたい」と答えており、やり方さえわかれば始めてみたいという人が多かった。また、株取引をしたことがない人に対して、なぜ株取引をしないのかを聞いたところ、「やり方がわからない」などの株取引に対しての知識がない回答がほとんどであった。

以上より、日本の若者が投資に積極的になるには国が主体となって株取引についての授業などを行えば良いと推察できる。

## 第3章

### アメリカ人の若者の株取引への意識調査

#### 3.1 調査目的

日本における株取引の実態で説明したように、日本ではほとんどの人が株取引をしておらず、学生も株式投資に対して多くの人がマイナスの印象を持っており、株取引に対する十分な知識を持っていない。しかし、アメリカでは国民の半数近くの人が株取引をしている[6]。そこで、アメリカの若者は株取引に対してどのように考えているのか、日本とアメリカにはどのような意識の差があるのか、そして、どこに日本とアメリカの違いがあるのかを明らかにするために、アメリカのテキサス州にあるアビリン・クリスチャン大学の学生にアンケートを取って調査を実施した。

#### 3.2 調査方法及び調査項目

2016年11月上旬にアンケートを添付したメールを学生に送り、アンケートに回答してもらった。

##### 【設問項目】

- 学部、年齢、出身
- 株取引に対する印象
- 現在株取引をしているか
  - Yes の場合
    - いつ株取引を始めたか
    - なぜ株取引をしているのか
    - 株取引を始めたきっかけは何か
    - 株式投資をする際の情報源は何か
  - No の場合
    - 株取引をしていない理由
    - 株取引をやってみたいか
- 資産運用についてどのように考えるか
- 今まで家庭内で株取引または資産運用について話をしたことがあるか

- 今まで学校で株取引や資産運用の大切さについて学んだことがあるか
- 銀行をどのくらい信用しているか

【設問項目】（英語表記）

- What's your major?
- How old are you?
- Where are you from?
- What do you think about stocks?
- Are you doing stock exchange?

Yes

- When did you start stock exchange for the first time?
- Why do you trade stocks?
- What events made you want to start trading stocks?
- Where do you get information about stock exchange?

No

- Why don't you trade stocks?
- Would you consider trading stocks?
- What do you think about investment?
- Have you ever talked about investment or stock exchange at your home with your family?
- Have you ever learned about the importance of investment or stock exchange at your school?
- How trustworthy is an American bank?

2016年11月15日から11月25日まで、アビリン・クリスチャン大学の職員の方をお願いをして22学部の学生にアンケートのURLを添付したメールを送ってもらう形式でアンケート調査を行った。当初はメールを全学生に送ってもらう予定であったが、途中で学校の決まりにより学生個人の依頼で職員がメールを送れないことがわかったため全学生にメールを送ることができなかった。また、職員の方が別の複数の職員の方々に依頼をしてメールを送っていたため何人の学生にメールを送ったのかわからず、回収率を出すことができなかった。回答者数は152人であった。

**Survey of stock**

I am doing a survey for my research paper. I would like to compare what American and Japanese students think about stocks. I need to your help.

\* Required

**What's your major? \***

- Business
- Bible
- Communication
- Art
- Engineering
- English
- Science
- Education and Human services
- History and Global Studies
- Information technologies
- Nursing
- Other: \_\_\_\_\_

図 6 アンケート画面

### 3.3 調査結果

アビリン・クリスチャン大学の 22 学部の学生 152 人にアンケートを行ったところ、図 7 に示すように株取引をしている学生は 15 人であった。図 8 に示すように株取引をしてみたいかという問いには約 75% の人がしてみたいと回答している。また、なぜ株取引をしないのかという問いに対しては、「やり方がわからない」という回答が約 70% あり最も多かった。株取引をしている学生に何歳から株取引を始めたのかアンケートを取ったところ、多くの人が 20 歳前後で始めていたが、中には小学生や中学生のときに始めたという人もいた。なぜ株取引をしているのかという問いに対しては、「将来のために資産運用をしている」という回答が最も多かったが、「銀行と比べて利率が高いから」や「父の勧めで」という回答もあった。また、株取引を始めたきっかけは何かという問いには、家族や父の影響ではじめたという回答が最も多かった。

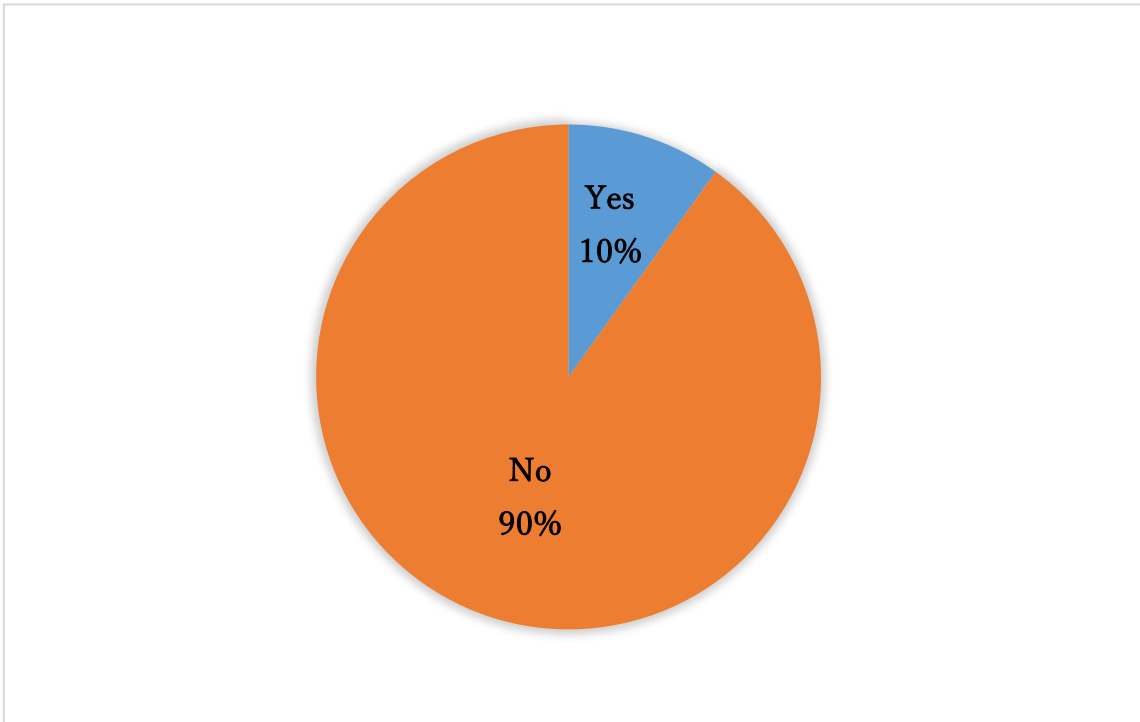


図 7 アビリン・クリスチャン大学の学生アンケート結果「現在株取引をしているか」

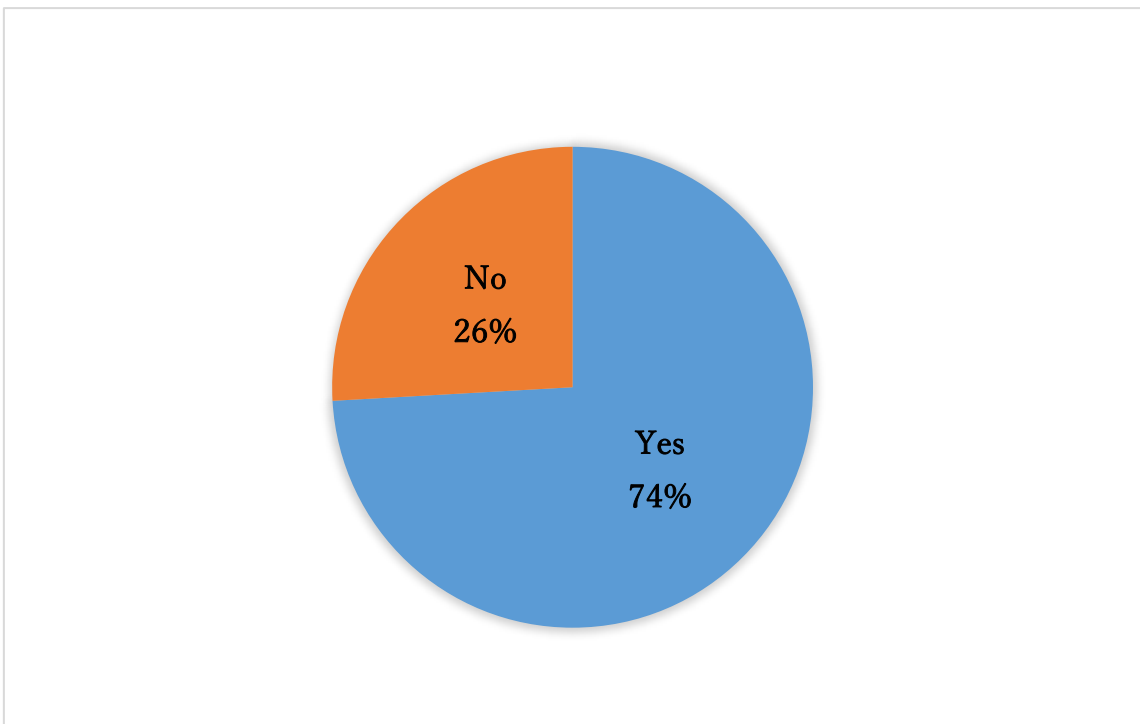


図 8 アビリン・クリスチャン大学の学生アンケート結果「株取引をやってみたいか」

アビリン・クリスチャン大学の学生の株取引に対する印象の結果を図 9 に示す。



「リスクが高そう」、「おもしろそう」という回答がそれぞれ約 25%ありこの二つの回答が最も多かった。また、約 15%の人が「わからない」、約 14%の人が「難しそう」と回答している。

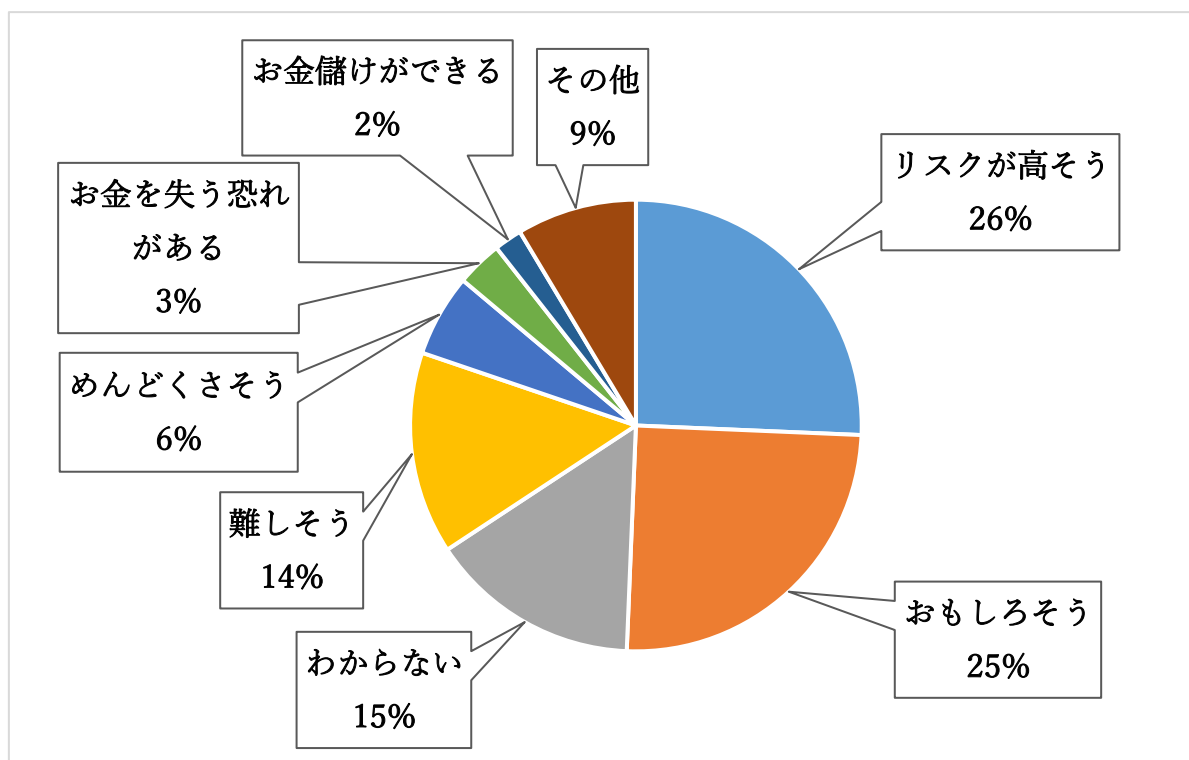


図 9 アビリン・クリスチャン大学の学生アンケート結果「株取引に対する印象」

図 10 に示すように、今まで家庭内で株取引または資産運用について話をしたことがあるかという問いに全体の約 55%の人があると答えている。また、図 11 に示すように、今まで学校で株取引や資産運用の大切さについて学んだことがあるかという問いには全体の約 40%の人があると答えている。このことから、投資を積極的に行うためには学校や家庭での株取引などの資産運用についての教育が必要だと思われる。

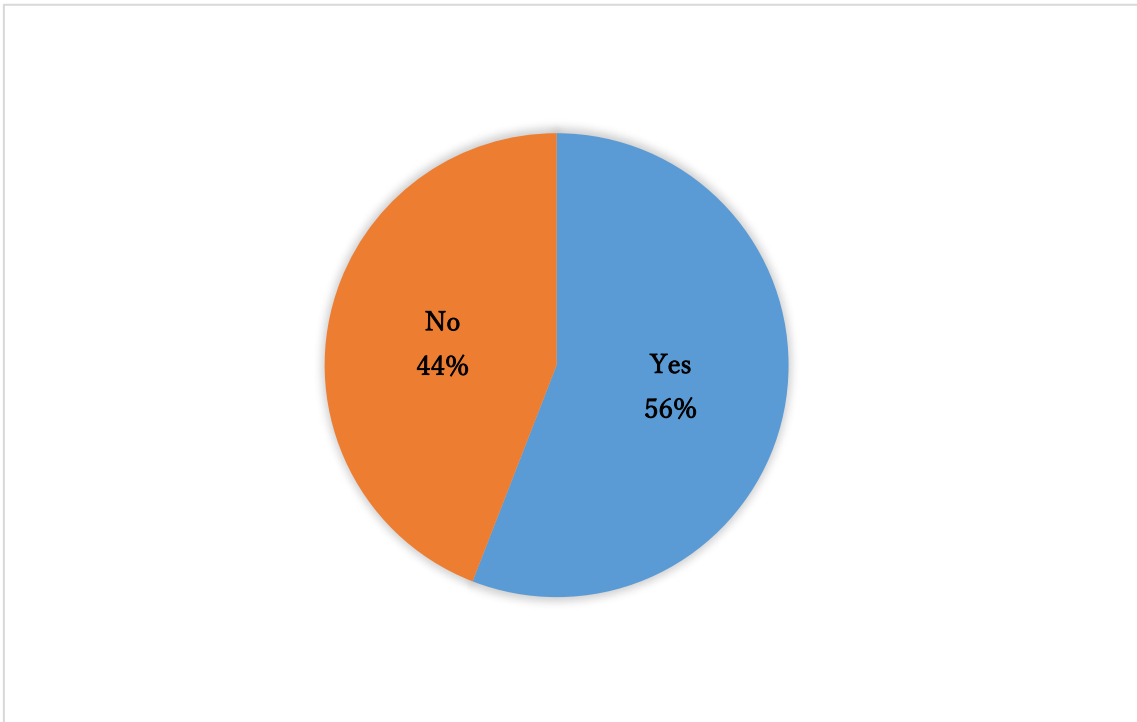


図 10 アビリン・クリスチャン大学の学生アンケート結果「今まで家庭内で株取引または資産運用について話をしたことがあるか」

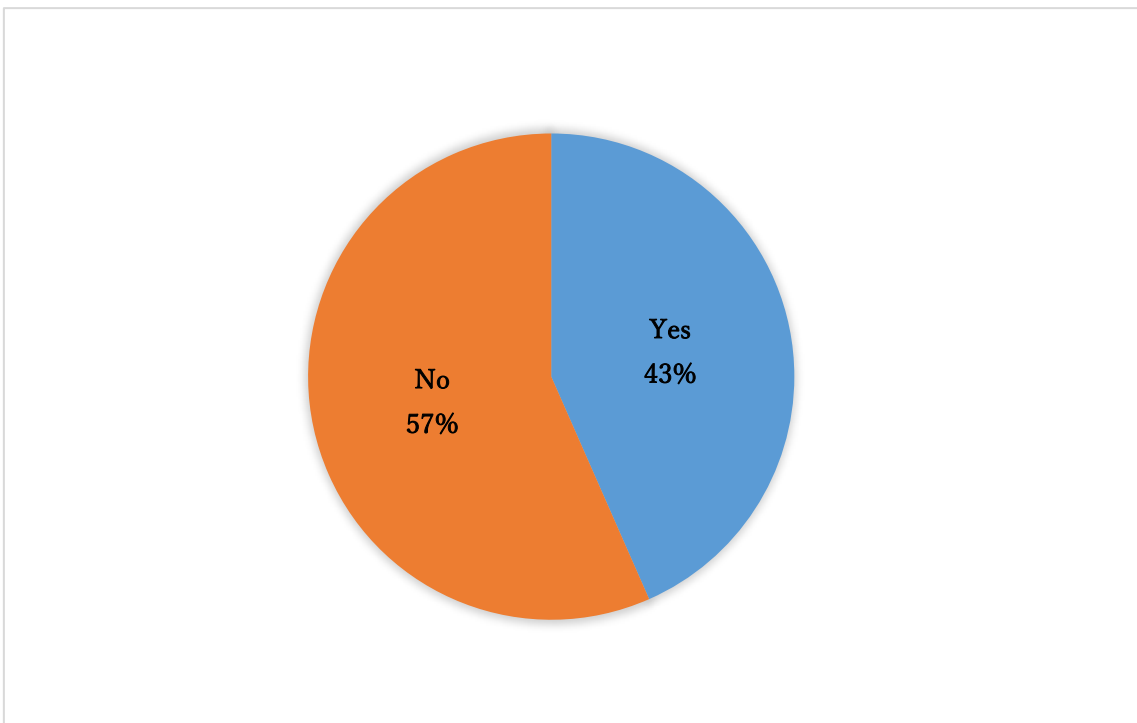


図 11 アビリン・クリスチャン大学の学生アンケート結果「今まで学校で株取引や資産運用の大切さについて学んだことがあるか」

また、銀行をどのくらい信用しているかについては、図12に示すように約50%の人が「ほとんどのお金を銀行に預けることができる」と回答しており、約30%の人が「すべてのお金を銀行に預けることができる」と回答している。その一方で、多くはないが「少しのお金しか銀行に預けない」や「お金を銀行に預けない」といった回答をしていることから多くのお金を銀行に預けないと考えている人もいることがわかった。

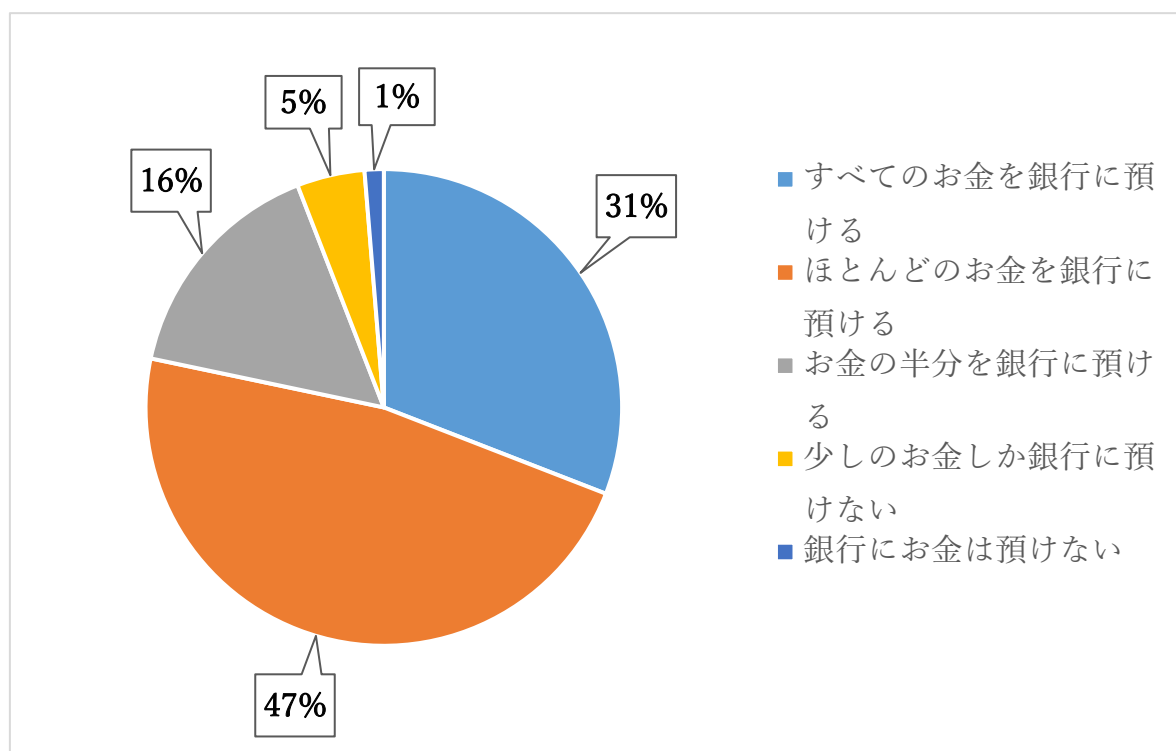


図 12 アビリン・クリスチャン大学の学生アンケート結果「銀行をどのくらい信用しているか」

## 第4章

### アメリカと日本における若者の意識差の原因

アビリン・クリスチャン大学の学生 152 人と九州産業大学の学生 237 人にアンケート調査を行った結果、アメリカと日本における若者の大きな意識の差は、現在株取引をしていない人の株取引に対する意欲にあることがわかった。

日本の現在株取引をしていない学生に株取引をしてみたいかという問いをしたところ、約 40%の人がしてみたいと答えたのに対して、アメリカの株取引をしていない学生の約 75%がしてみたいと答えており大きな差があることがわかる。また、日本の学生は株取引に対して「難しそう」、「リスクが高そう」というマイナスの印象が約 50%を占めている。それに対してアメリカの学生は「リスクが高そう」、「おもしろそう」という回答がそれぞれ約 25%ずつあり最も多く、多くの学生がリスクは高いが興味はあると考えていることがわかる。

現在株取引をしているかという問いに対しても、アメリカでは学生 152 人中 15 人が現在株取引をしているのに比べて、日本では学生 237 人中 3 人しか現在株取引をしていない。さらに、株取引をしている学生の中で、ビジネス学部の学生は 4 人しかおらず、ビジネスやファイナンスを専攻していない他の学部の学生も株取引を行っていることから、学生全体の意識の高さがわかる。

なぜ株取引をしないのかという問いに対しては、日本では「やり方がわからない」、「損をしたくない」という回答が全体の約 50%を占めている。その一方でアメリカでは「やり方がわからない」、「株取引をするのに十分なお金がない」という回答が全体の約 50%を占めていることから、やり方を知り、十分なお金があれば始めてみたいという人がアメリカには多くいることがわかる。

また、これらの意識の違いの理由として、家庭内や学校での教育が影響していることがアンケート結果からわかった。今まで家庭内で株取引または資産運用について話をしたことがあるかという問いに対して、全体の約 60%の人があると答えている。また、今まで学校で株取引や資産運用の大切さについて学んだことがあるかという問いに対しても約 40%の人があると答えており、どちらもないと答えている人は全体の約 30%しかいない。さらに、現在株取引をしている理由や始めたきっかけについて最も多かったのは「父の勧めで始めた」や「家族の影響」という回答であったことから家庭内や学校での教育が日本との

大きな差に影響を与えていることがわかる。現在株取引をしているアメリカの学生に何歳から株取引を始めたのかアンケートを取ったところ、多くの人が20歳前後で始めていたが、中には小学生や中学生のときに始めたという人もいたことから家庭内での影響が大きいことがわかる。さらに学校での株取引や資産運用について学ぶ授業についてビジネス学部の学生に話を聞いたところ、アビリン・クリスチャン大学のビジネス学部の授業の中には株取引のオンラインゲームなどで学生に実際に取引をさせて株取引がどういったものなのかを教えている授業もあり、多くの学生が日本と比べて株取引についてより身近に感じていることもわかった。

最後に、銀行への信用度をアンケートで調査したところ、約80%の人がすべてのお金、またはほとんどのお金を銀行に預けることができると答えており銀行に対して一定の信頼があることがわかるが、残りの約20%の人は多くのお金は預けない、または銀行にお金を預けないと回答していることから日本ほど銀行に対する信頼が絶対的ではないことも影響を与えている可能性があることがわかる。

## 第5章

### おわりに

本論文では、アメリカの学生にアンケートを取ることで日本の学生との株取引に対する意識の違い、なぜ日本の学生と違うのかについて考察した。日本の学生 237 人にアンケートを取った結果、3 人しか株取引をしておらず、全体の約 40% が株取引をしてみたいという回答をしたのに対して、アメリカの学生 152 人にアンケートを取った結果、15 人が株取引をしており、全体の約 75% が株取引をしてみたいという回答をしていた。また、株取引に対する印象について日本の学生の最も多かった回答二つは「難しそう」、「リスクが高そう」であったのに対してアメリカの学生は、「おもしろそう」、「リスクが高そう」という回答であった。アンケート結果から日本とアメリカの学生の間でこれらの違いがあることが分かった。

その理由として、家庭内や学校での教育の違いが影響している可能性があった。そこで、今まで家庭内で株取引または資産運用について話をしたことがあるかという問いと今まで学校で株取引や資産運用の大切さについて学んだことがあるかという問いをしたところ、今まで家庭内で株取引または資産運用について話をしたことがあるかという問いに対しては全体の約 60% の人があると答えている。また、今まで学校で株取引や資産運用の大切さについて学んだことがあるかという問いに対しても約 40% の人があると答えており、どちらもないと答えている人は全体の約 30% しかいないことがわかった。さらに、現在株取引をしている理由や始めたきっかけについて最も多かったのは「父の勧めで始めた」や「家族の影響」という回答であったことから家庭内や学校での教育が日本との大きな差に影響を与えていることがわかった。

これらのことから、日本でも国が主体となって資産運用や株取引についての授業などを行うようにさせることでこれからの若者が株取引を身近に感じることができるようになり、実際に株取引を行う人が増えていくと考える。また、家庭内で株取引の重要性や資産運用の大切さを伝えていくことでさらに下の世代の人々の理解がより深まり、より多くの日本人が株取引などの資産運用を行っていくのではないかと考える。

確かに株取引などの資産運用は損をしてしまうリスクがあり、それなりの利益を得るためには多くのお金が必要になる。しかし、私が実際に株取引をして

感じたことは株取引について勉強をすることで十分な知識を得さえすれば簡単に損をすることはないということである。株取引はギャンブルとは違い、企業についての指標や業績についての指標をしっかりと分析することで、今後の動向を予想することができる。また、株を買った時点ではお金そのものはなくなっても、資産として自分で保有できるためお金をつぎ込んだ時点で資産がなくなるギャンブルとは違う。例え株価が下がったとしても自分が買ったときより低い株価で売りさえしなければ損をすることがないため、上がるまで待つて売却することもできる。さらに、ほとんどの人が株取引には多くのお金が必要であると考えているが証券会社によっては株取引の少額取引というものを行っているところもある。本来株式は単元株といって 100 株や 1000 株など決まった単位の株数からしか買うことができないが、この少額取引では 1 株から買うことができる銘柄もあるため株取引を行うのに多くのお金が必要にならない。そのため、収入の少ない私たち学生に株取引は適していると考える。

また、実際に株取引を行って株取引から得られるのはお金だけではないということがわかった。世界の経済情勢を注意して見るようになり、株価の変動の原因についても考えるようになった。単にお金を得ただけでなく社会に出てからも役に立つことを学ぶことができた。

これらの理由から、「はじめに」で説明したようなこれから起こりうる様々なリスクに対応していくためにも国が主体となって株取引などの資産運用について国民により身近に感じさせる必要があるのではないかと考える。

## 引用・参考文献

[1] 内閣府「平成 28 年版高齢社会白書」

URL([http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf_index.html))

[2] 平成 26 年度子供の学習費調査

URL([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa03/gakushuui/kekka/k\\_detail/1364721.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa03/gakushuui/kekka/k_detail/1364721.htm))

[3] 国土交通省「平成 26 年度住宅市場動向調査」

(<http://www.mlit.go.jp/common/001084318.pdf>)

[4] 総務省「家計調査報告（家計収支編）—平成 27 年（2015 年）平均速報結果の概況—」

URL(<http://www.stat.go.jp/data/kakei/sokuhou/nen/pdf/gk00.pdf>)

[5] 日本証券業協会調査部「平成 27 年度 証券投資に関する全国調査（個人調査）」

URL([http://www.jsda.or.jp/shiryochousa/data/research\\_h27.html](http://www.jsda.or.jp/shiryochousa/data/research_h27.html))

[6] Bankrate Money Pulse survey

URL(<http://www.bankrate.com/finance/consumer-index/money-pulse-0415.aspx>)

[7] 日本銀行調査統計局「2016 年 資金循環の日米欧比較」

URL(<https://www.boj.or.jp/statistics/sj/sjhiq.pdf>)

[8] 日本証券業協会「証券調査に関する全国調査」

(<http://www.jsda.or.jp/shiryochousa/data/index.html>)



## Survey of stock

I am doing a survey for my research paper. I would like to compare what American and Japanese students think about stocks. I need to your help.

What's your major?

- Business
- Bible
- Communication
- Art
- Engineering
- English
- Science
- Education and Human services
- History and Global studies
- Information technologies
- Nursing
- Other .....

How old are you?

-----

Where are you from? (sate)

-----

What do you think about stocks?

- It seems difficult.
- It is risky.
- It takes too much process.
- It is interesting.
- I don't know.
- It is scary to lose money.

- It makes tons of money.
- Other -----

Are you doing stock exchange?

- Yes
- No

If yes, when did you start stock exchange for the first time?

-----

If yes, why do you trade stocks?

-----

If yes, what events made you want to start trading stocks?

-----

If yes, where do you get information about stock exchange?

-----

If no, why don't you trade stocks? (You can choose more than one.)

- I don't know how to do.
- It takes too much process.
- It is risky.
- I don't have enough money.
- It isn't interesting.
- It seems expensive.
- I don't want to lose money.
- Other -----

If no, would you consider trading stocks?

- Yes
- No

What do you think about investment?

-----

Have you ever talked about investment or stock exchange at your home with your family?

- Yes
- No

Have you ever learned about the importance of investment or stock exchange at your school?

- Yes
- No

How trustworthy is an American bank?

- All of your money is in the bank.
- Most of your money is in the bank.
- Some of your money is in the bank.
- Not much of your money is in the bank.
- None of your money is in the bank.